
祝福の詩

桂樹 槐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

祝福の詩

【著者名】

桂樹 槐

N2887D

【あらすじ】

卒業生に捧ぐ、そんな感じの小説です。最後だと思いつつ、それまで嫌だった教室も、離れがたくなつたりしませんか？

最後に立ち寄った教室は、やけに静かで、ひんやりとしていた。

教室の真ん中あたりにある自分の席に座つて、ぐるりと教室を見回した。

今日でのこの席ともお別れか、そつ思つとなんだかくすぐつたくて、すこしだけ寂しくなつた。

高校最後の文化祭。

クラスのみんなで一丸になつて盛り上がつて楽しかつたよな、とか。

高校最後の運動会。

フォーキダンスはちょっと恥ずかしかつたけど、でも乐しかつたな、とか。

受験が間近に迫つてきたときは、友達が大事だなつて実感したり。

会おうと思えば会うことが出来るだらう人たちと、もうこれつきりになつてしまふかもしれない人たち。

出来ることならばもうちょっと一緒にいたかったかな、なんて我が家かもしれない

いけれど。

やつ、やつぱり、くすぐつたい

最初は一番下で、先輩と呼ぶ人しかいなかつたのに、

中学生はいたけれど

いつの間にか後輩が出来て、いつの間にか後輩しかいなくなつた。時間は確実に流れていったことを、そういうつた変化が物語つてゐる。

また、いつか会えたらいい

そうしたら今までみたいにバカ騒ぎしたい
でも時の流れは無情だから

次会つときはどうなつてるのかわからない

卒業式の影響か、考え方が少しだけ暗く……悲しい方向へ向いてしまつた。

大丈夫、みんなすぐ人に変わつたりしない、多分。

「…帰るぞー！」

ふいに降ってきたその声に後ろを振り向くと、いつもと同じ仲間たち。

「今、行く」

そう、自分に言い聞かせるようにして呟いた。
名残惜しそうに机に手を沿わせながら、扉へ向かう。

さよなら

またいつか会いましょう

そんな声がどこからか聞こえてきたような気がする。
下駄箱の周りでわいわいと別れを惜しんでいる人たちのにぎやかで、

どこか悲し

い、でもうれしそうな声。

わけのわからない苦笑が滲む。

祝福の鐘をあなたへ

祝福の詩をあなたへ

どうかどうか

あなたの心に届きますよ、

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2887d/>

祝福の詩

2010年12月10日20時49分発行